内外樹木のいろいろ(31)
ユソウボク属の樹木

平井　信二*

1．ユソウボク属の概要（写真1，2）

ユソウボク属 *Guaiacum* はまた *Guajacum* と綴ることがありハマビシ科 *Zygophyllaceae* に属する。10種ほど記載されているがS. J. RECORD, R. W. HESS 両氏によれば4種とするのが妥当のようである。その分布はアメリカのフロリダ州最南部の島岐フロリダキー，西インド諸島，メキシコ南部のユカタン半島，コロンビア・ベネズェラ・ガイアナのカリブ海沿岸と，メキシコからパナマへかけての中米太平洋側の地域である。その代表的な種類はユソウボク *Guiacum officinale* LINNAEUS であるが，このもの，またあるいは他の種類も含めての世界に通じる一般名称として lignum-vitae があり，また英名に guiac wood, pock wood，独名に Guajakholz, Pockholz がある。和名は癒瘡木の読みであるが木材関係ではリグナムバイタといっていることが多い。

常緑の小～中高木で葉は対生する偶数羽状複葉で1～7対の小葉からなり，小葉はおおよそ楕円形，全縁，革質である。枝の先に散形花序を出して花をつける。萼片は5個，花弁は5個，雄ずいは10個，雌ずいは1個。果実は朔果で中に1～2個の種子をもっている。

写真1　ユソウボク属1種の枝葉
（シカゴ，ガーフィールド庭園，温室）

材は散孔材で辺材・心材の区別は明瞭，心材は暗褐色，帯緑黒褐色など，生長輪はふつう認められない。木理はときに著しく交走し肌目はきわめて緻密で油脂分を多く含んで蠟状光沢を呈する。材は世界中の用材のうちで最も重硬なものの代表とされるもので気乾比重1.10～1.41に至る。したがって機械の部材，器具材として特殊の用途があり，とくに船舶のスクリューの軸受用材として最もよく知られている。Lignum-vitae（生命の木）の名の由来はこの材に難病に対する特別な治癒力のある成分が含まれていると信じられたことによっている。14世紀以来かなり重要な貿易物資になって高価に取引されたのであるが，現在ではその効果は疑問とされこの用途はほとんどすたれてしまった。

1992年3月京都で行われたワシントン条約会議（絶滅のおそれある野生動植物の種の国際取引に関する会議）で，アメリカ提案の西インド原産リ

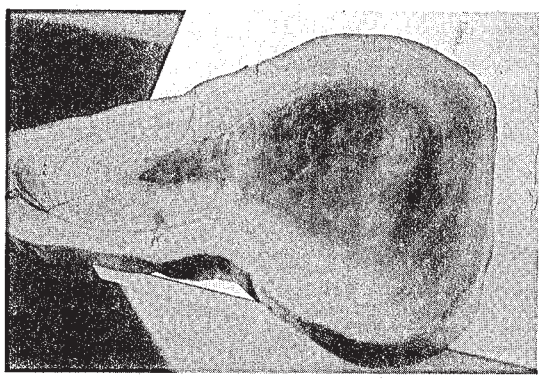

写真2　ユソウボク属1種の円板
（名古屋大学・資料館）

*東京大学名誉教授